

学術研究の持続的な推進と研究の安全保障

渡辺 修(東京理科大学 研究推進部 副主幹)

山田 朗(愛媛大学 先端研究院先端研究高度支援室 准教授)

講師略歴

【渡辺修】1993年に学校法人東京理科大学事務職員として採用。教務課、総務課、人事課、学生支援部等を経て、2015年から現所属で安全保障輸出管理業務を担当。2022年からは経済産業省安全保障貿易自主管理促進アドバイザーとして大学等の体制整備を支援し、経済産業省主催の講習会等で講師を務める。輸出管理 DAY for ACADEMIA 実行委員会委員。

【山田朗】2002年に愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センターに助教として採用。2009年から先端研究推進支援機構のリサーチアドミニストレーター、2023年にシニア・リサーチアドミニストレーター。現在、輸出管理 DAY for ACADEMIA 実行委員会委員長。

プログラム概要

近年、国際情勢の緊張の高まりを背景に、大学の国際的な教育研究に対しても、政府「経済安全保障」政策に基づく取組が求められており、特に公的研究費に関して、e-Rad や科研費での体制整備状況等の登録要件化、昨年12月の内閣府『研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書』などが次々と示されてきました。大学経営の環境が厳しさを増し、先端的な研究には公的研究費が欠かせない中、政府の要請への対応に各大学とも頭を悩ませています。

このプログラムでは、研究の「安全保障」について「安全保障輸出管理」「研究セキュリティ」「研究インテグリティ」を取り上げて、「どうして」「何が」求められており、「何を」「どのように」すればよいのか、を示します。また、大学の社会的使命である学術研究を持続的に推進するため、各大学それぞれの独自性を踏まえた対処のあり方について考えていきます。講義が中心ですがディスカッションの時間も設ける予定です。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. 研究支援関連業務、国際化関連業務に携わる事務職員
2. それら担当部署から「外為法が・・・」「研究インテグリティの確保が・・・」と言われるけれど、いったい何のことやらと途方に暮れている教職員

到達目標

1. 安全保障輸出管理、研究セキュリティ、研究インテグリティについて、それぞれの概念の違いを説明できる。
2. 安全保障輸出管理、研究セキュリティ、研究インテグリティについて、それぞれが求められた背景を説明できる。
3. それぞれの違いを整理して、自身の実務の中で活用できる。